

総合大学校「まなびーあ徳島」 アフターコロナに向けて

- 1 近年(R2～R4)の講座開催状況
- 2 WITHコロナにおける取組
- 3 アフターコロナを見据えて

1 近年の講座開催状況



まなびーあ徳島

令和2年度

＜R2. 4月＞

本県を含む全国に緊急事態宣言発令

＜R2. 5月＞

「とくしまアラート」を策定

＜R2. 10月＞

新型コロナ感染拡大条例を制定

令和3年度

＜R3. 8月＞

とくしまアラート「特別警戒」を発動

県内全域の飲食店への営業時短要請

＜R3. 12月＞

「とくしまアラート」の改定

＜R4. 2月＞

第6波による感染拡大

令和4年度

＜R4. 7月～＞

第7波(オミクロン株)による感染拡大

＜R4. 11月～＞

第8波による感染拡大

＜R5. 2月＞

とくしまアラート

「レベル1感染小康期」に移行

○ 感染対策の周知徹底

(マスク着用・消毒、定員の見直し、
チェックリストによる感染対策の徹底)

WITHコロナ対策

○ オンライン等のDXの積極的な活用

(ハイブリッド、オンデマンド、デジタルデバйд)

「対面講座」に加え、
「オンライン講座」を実装

主催講座数: **1, 481講座**

受講者数: **43, 286人**

「対面」と「オンライン」の
メリットを活かす
「ハイブリッド化」を推進

主催講座数: **1, 504講座**

受講者数: **54, 867人**

「ハイブリッド化」の拡大に加え、
高齢者向けの
「デジタルデバйд」の取組を実施

主催講座数: **1, 393講座**

受講者数: **52, 204人**

(R4.12月末現在)

ニューノーマルの推進により講座数・受講者数ともに回復

2 WITHコロナにおける取組

(1)「対面」と「オンライン」のハイブリッド学習の拡大

- | | | |
|------------|--------------------------------------|---|
| (本部) | ◆新あわ学コース ◆リカレント教育推進事業 |  <p>若者が考える
地方の未来</p> |
| (教育社会学部) | ◆県民講座(人権) ◆大阪・関西万博をのぞいてみよう | |
| (総合政策学部) | ◆徳島SDGsフォーラム ◆とくしまDXフォーラム | |
| (産業経済学部) | ◆女性起業家アカデミー ◆女性起業塾(初級編) | |
| (男女共同参画学部) | ◆ダイバーシティ推進セミナー ◆多様な性や家族のあり方セミナー | |
| (生活環境学部) | ◆若者が考える地方の未来 ◆とくしま脱炭素対策マイスター講座(GX) 等 | |

(2)「オンライン講座」や「デジタル学習」受講の後押し

- | | | |
|----------|-------------------------------|---|
| (本部) | ◆基礎から学ぶ！シニア向けスマホ活用講座 |  <p>はじめてのデジタル活用術</p> |
| | ◆はじめてのデジタル(スマホ・タブレット・パソコン)活用術 | |
| (教育社会学部) | ◆楽しく学ぼうパソコン教室(学んで伝える体験ひろば) | |
| | ◆文化の森パソコン教養講座 等 | |

(3)新しい技術や知識を習得するリカレント教育の実施

- | | | |
|----------|---------------------------|--|
| (徳島大学) | ◆歯のホワイトニング集中講座 |  <p>幼児の遊具の作成・活用講座 2</p> |
| (徳島文理大学) | ◆幼児の発達を促す遊具の作成・活用講座 | |
| (四国大学) | ◆MOS資格取得支援プログラム | |
| (阿南工専) | ◆とくしま事前復興まちづくりファシリテータ養成講座 | |
| (徳島工短大) | ◆自動車整備基礎講座 等 | |

(1)「対面」と「オンライン」のバイブリッド化の取組

■2025年大阪・関西万博をのぞいてみよう！

- 対象 県内児童・生徒とその家族
- 実施方法 対面＋Zoom＋オンデマンド
- 受講者数 178名（うちZoom受講者45名）
- 内容 万博の概要や歴史をクイズや動画で紹介
マイパビリオンを考えよう



<参加者の声>

- ・万博が待ち遠しくなった。・楽しみな万博をより知ることができてよかった。
- ・オンライン受講が可能であったため参加しやすかった。

■徳島SDGsフォーラム

- 対象 県民
- 実施方法 対面＋YouTubeライブ＋オンデマンド
- 受講者数 191名（うちYoutubeライブ受講者81名）
- 内容 徳島SDGsプラットフォーム設立式
先進事例を学ぶ（基調講演、パネルディスカッション）



<参加者の声>

- ・県の積極的な取組みに期待する。・県の価値・可能性を見いだすことができた。
- ・国内外から訪れたくなる場所になるよう期待している。

(2)「デジタルデバйд」の解消に向けた取組

■基礎から学ぶ！シニア向けスマホ活用講座

○対象 スマートフォン初心者

スマートフォンの活用に興味がある方

○開催日・場所 8月 3日、8月26日

自治研修センター

8月30日 南部総合県民局阿南庁舎

9月 1日 西部総合県民局美馬庁舎

○受講者数 計56名

○内容 自分のスマホを使った実践的な講座

「インターネット等を安全に使うための基礎知識」

「アプリのダウンロード、使い方」「QRコードの使い方」

「キャッシュレス決済について」等

e-とくしま推進財団と連携
デジタル支援員を活用



講師とデジタル支援員の連携により、参加者を支援

<参加者の声>

- ・丁寧な説明で、疑問に思っていたことが少しわかった。
- ・もっと色々な使い方を教えてほしい。
- ・1回ではなく、何回(シリーズ化も含め)も開催してほしい。



(3)リカレント教育推進事業

■新しい技術の習得、就職や転職にもつながる実践的な知識の習得

<MOS資格取得支援プログラム> (対面+Zoom+オンデマンド)

- 開催日 令和4年9月～12月
- 内容 資格取得をめざすワード、エクセル講座(講義及び実習)
- 受講者数 延べ65名⇒新たに4名がMOS資格を取得!

<参加者の声>

- ・リモートで参加できたので、社会人も参加しやすかった。
- ・リモート参加はとても良かった。
- ・とても良いプログラムであった。



<自動車整備基礎講座> (対面)

- 開催日 令和4年10月29日、11月12日、12月10日 計3日
- 内容 エンジンルーム内作業、タイヤなどの足回り作業、溶接作業
- 受講者数 延べ28名

<参加者の声>

- ・班分けされていて、効率よく学べた。
- ・講義と実習のバランスがよく、ためになった。
- ・質問時間も十分にあり良かった。



■リカレント教育推進のためのニーズ調査概要

<目的>

県内の産業界における、リカレント教育の認知度やニーズを把握し、
高等教育機関と連携して新たなリカレントプログラムを検討するために実施した。

<概要>

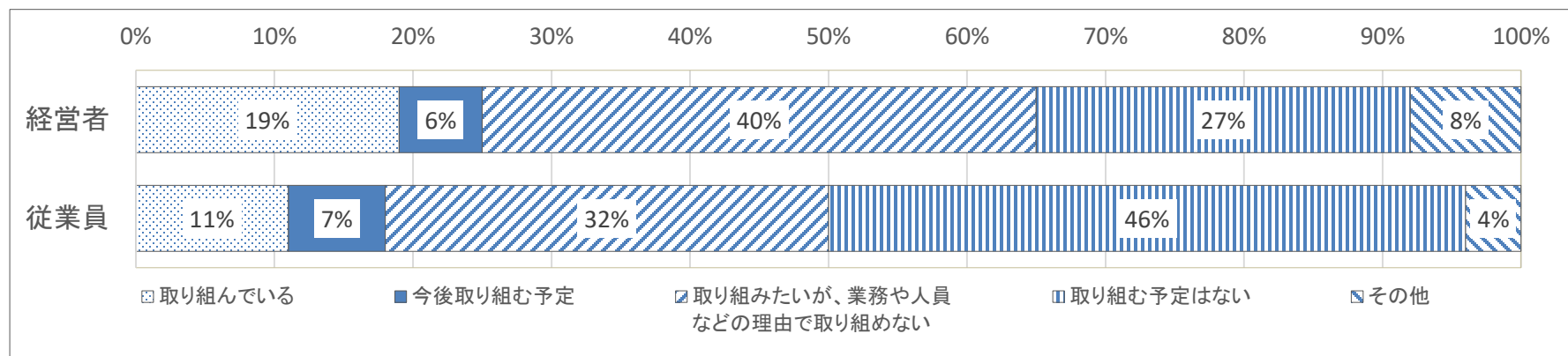
	経営者	従業員
対象者	県内商工団体のうち174企業	1企業あたり3名～5名程度
主な調査対象業種	製造業、建設業、金融業、卸売(小売)業、医療・福祉サービス、教育機関等	
調査方法	郵送配布 郵送又は電子による回収	
調査期間	令和4年11月28日～12月16日	
有効回答数(回答率)	48件(28%)	150件

<主な調査結果>

(1)認知度：経営者「聞いたことがある」90% 従業員「聞いたことがある」60%

(2)リカレント教育への意欲度：経営者65% 従業員50%

※取り組み済み、今後取り組む予定、取り組みたいが取り組めていないを意欲度として集計



■リカレント教育推進のためのニーズ調査概要

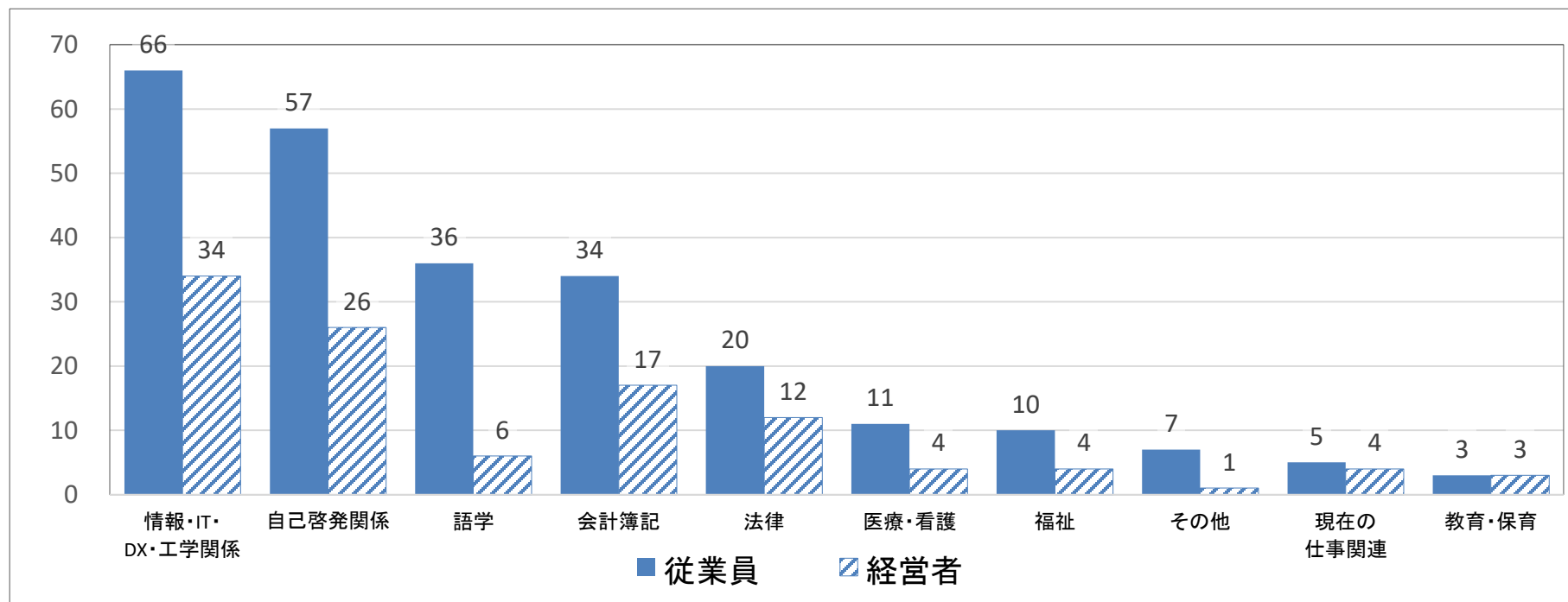
(3) 学びたい(学ばせたい)分野

従業員・経営者ともに
「情報分野」「自己啓発」
に関連する分野を主に学びたい
(学ばせたい)と考えている。

従業員については、この他に
「語学」「会計簿記」
に関連する分野を学びたいと回答。

	1位	2位	3位
情報分野	PCスキル応用 32件(19%)	プログラミング基礎 23件(13%)	DX関係の基礎知識 20件(12%)
自己啓発	コミュニケーション力向上 32件(25%)	メンタルヘルス 25件(19%)	リーダーシップ研修 19件(15%)
語学	日常会話レベル 25件(69%)	ビジネスレベル 6件(17%)	初級・基礎語学 4件(11%)
会計簿記	経理などの実務知識 23件(35%)	税に関する知識 22件(33%)	資格取得 22件(25%)

※従業員が主に学びたい分野の詳細



■リカレント教育推進のためのニーズ調査概要

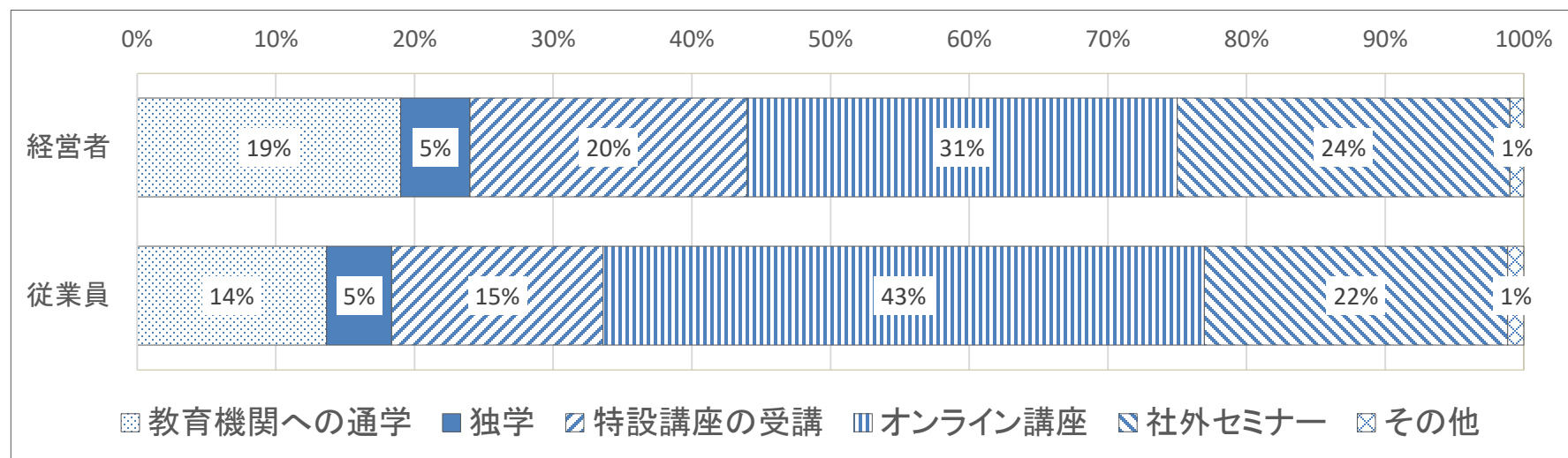
(4) 受講形態

従業員、経営者ともに「働きながら受講できるもの」が最も多く、

受講に適した時間帯は、従業員、経営者ともに「平日夜間(18:00~22:00)」の希望が最も多い。

(5) 受講方法

従業員、経営者ともに「オンライン講座での受講」が最も多く、続いて「社外セミナーの受講」、「教育機関の特設講座の受講」、「大学等への通学」が多い。



- ・リカレント教育に対して、経営者は肯定的な意見が多い。
- ・経営者及び従業員とも 職務に役立つ実践的なプログラムを求めている。
- ・「オンライン講座」のほか教育機関への通学など「対面講座」のニーズもある。

3 アフターコロナを見据えて

○県民誰もが広く学べる「**学び舎**」を創出

時代の潮流を踏まえた学びの提供

➡「**DX**」の活用など、ニーズに応じた魅力ある講座を展開

○「誰一人取り残さないデジタル社会」の実現

「デジタルデバйд」解消に向けた取組を推進

➡「**スマホの活用**」など、暮らしに役立つより実践的な講座を実施

○「地方創生の担い手」の育成

高等教育機関と連携した「**リカレント教育**」を推進

➡「**ニーズ結果**」を関係機関と共有し、**リカレントプログラム**を充実